



両生類 *Amphibians*

弥栄ダム周辺には、多様な両生類が生息しています。

両生類には、繁殖場所としての水辺環境と、生息場所としての陸域環境のどちらも必要で、それぞれが繋がっていることが大切です。水辺環境と森林や草地が近接しているダム湖周辺は、多様な両生類の生息場所として利用されています。特に、森林を生息場所とするカエル類が多くみられます。

ここでは、弥栄ダム周辺でみられる代表的な10種を紹介します。

ブチサンショウウオ *Hynobius naevius*



- **分類**
有尾目サンショウウオ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【環境省】
準絶滅危惧【広島】
情報不足【山口】

特 徴

全長は幼生（子ども）が30～40mm、成体（親）が110～120mm。
背面は幼生では薄茶色、成体では紫がかった灰色で、不規則な銀白色のまだら模様があることから名付けられました。頭は卵形で、長い体には前2本、後2本の短い足がついています。尾は体より短く、体長の2/5程度の長さです。
幼生は水中で生活し、水生昆虫やヨコエビの仲間などを食べますが、変態後は陸上で、小さな昆虫やミミズなどを食べて暮らすようになります。

生 息 場 所

ふだんは陸上で生活し、山地の小溪流周辺の森林内に生息します。幼生は溪流のたまりでみられます。
弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は、4月中旬～5月下旬。
日光の差し込まない石の下や伏流水の湧き出る溪流のくぼみなどの石の下に卵を産みつけます。卵は丸く巻いた透明な袋（卵のう）に入っており、1つの卵のうに15～25個の卵が含まれています。卵は約1ヶ月でふ化し、7月下旬頃には溪流の流のゆるやかなたまりなどで幼生を見ることができます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期				■									小溪流の源流に近い岩の下や水がわき出る砂利の中
出現時期				■	■	■	■	■	■	■	■	■	山地の小溪流周辺の森林

アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*



- **分類**
有尾目イモリ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧種【環境省】
準絶滅危惧【広島】

特 徴

全長は幼生が30～35mm、オスが100～130mm、メスが80～140mm。
背面は黒色で、腹面には赤黒いまだら模様があります。オスとメスで尾の形が違い、オスの尾は幅広く末端で急に細くなりますが、メスの尾は全体的に細めです。
動物食で、ミジンコや水生昆虫、カエルの幼生などを食べます。
イモリという名前は「井守」に由来しており、井は水田の用水または井戸を意味しています。水中で暮らすイモリが、水田や井戸を守る生き物であると考えられていたことから名付けられました。

生 息 場 所

平地や山地の水田、ため池などのたまり、河川の流れのゆるやかな場所などの水中で生活します。弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は4～7月。
水田、池などの浅い水域の水草などに1個ずつ繁殖します。卵はゼリー層に包まれ、上面は薄茶色です。17～27日(水温約20度)でふ化し、70～100日で変態します。変態した個体は、1年以上陸上生活をした後に水域に戻ってきます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													浅い水域の水草
出現時期													水田、ため池、流れのゆるやかな河川

ニホンアマガエル *Hyla japonica*



- **分類**
無尾目アマガエル科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長50mmほど、成体はオスが体長22～39mm、メスが体長26～45mmの小型のカエル。

体の色は環境によって明るい緑色～灰色に変えることができ、眼の前後には黒い帯状の模様があります。指先には吸盤が発達し、草むらや木の上で生活し、小型の昆虫類を食べます。

オスはノドに大きく膨らむ鳴き袋をもっており、小さな体にもかかわらず「クワックワックワッ……」と大きな声で鳴きます。特に雨が降る前によく鳴くことから、雨の予報をするカエルとして知られています。

生 息 場 所

平地や低山地の林、草原などの低い木や草の上に生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川で見られます。

繁 殖

産卵期は4～7月。

水田、池などの浅い水域の水草などで繁殖します。卵は暗い黄色で、寒天質に包まれています。2日半でふ化し、幼生になります。幼生（オタマジャクシ）の期間は約32日と短く、8月上旬までに変態して幼体（子ガエル）となり陸上で生活します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													水田、池などの浅い水域
出現時期													低い木や草の上

タゴガエル *Rana tagoi tagoi*



- **分類**
無尾目アカガエル科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長が20～28mm、成体はオスが体長30～58mm、メスが体長31～54mmの中型のカエル。

背面は赤みのある茶色のものが多く、下あごから胸の前方は、薄い墨色でおおわれています。溪流周辺の森林内で生活し、昆虫、クモ、陸貝などを食べます。

繁殖期になると、オスは溪流沿いの水がわき出る岩のすき間や斜面の穴などにかくれて、「グッグググッ……」と低い声でメスを呼びます。このため、鳴き声が聞こえても声の主を見つけることはかなり困難です。

生 息 場 所

山地の溪流沿いの森林内などに生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

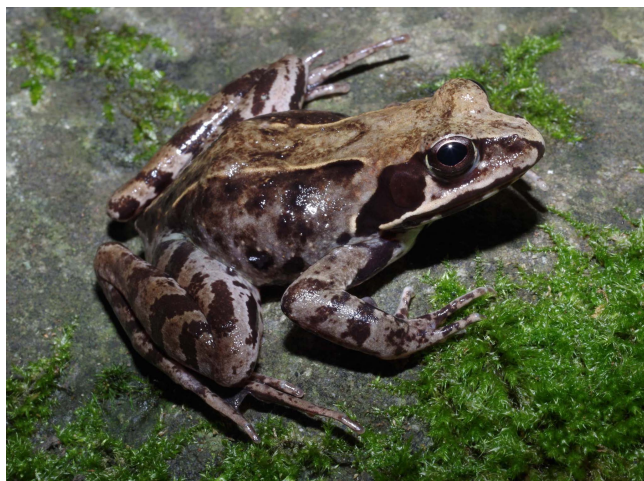
産卵期は4月中旬～5月中旬。

谷川の岸や日陰の水たまりなどで繁殖します。上面が暗い茶色の卵で、繁殖数は60～100個です。1～2週間でふ化し、6～7月にオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													日陰の水たまり
出現時期													山地の溪流沿いの林

ヤマアカガエル *Rana ornativentris*



- **分類**
無尾目アカガエル科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長が43～60mm、成体はオスが体長42～60mm、メスが体長36～78mmの中型のカエルです。
背面は赤みのある茶色のものが多く、下あごには黒くて大きな模様があります。山地の森林内や水田の周辺で生活し、昆虫、クモ、ミミズ、ナメクジなどを食べます。
繁殖期になるとオスは日当たりの良い浅い池や水たまりに集まり、「キャラララ……」とやや高い声で鳴きます。
よく似た種にニホンアカガエルがいますが、目の後ろから背中に走る2本の線が、目の後ろあたりで曲がっていることで区別できます。

生 息 場 所

山地の森林、水田やその付近の草むらに生息します。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は1～4月。
日当たりの良い水たまりなどの水域で繁殖します。卵は暗い茶色で、大きい卵塊になります。繁殖数は1,000～2000個です。卵は2～3週間でふ化し、6～7月にオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													日当たりが良く浅い水域
出現時期													谷間の水田やその付近の林

トノサマガエル *Rana nigromaculata*



- **分類**
無尾目アカガエル科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【環境省】
準絶滅危惧【広島】
準絶滅危惧【山口】

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長が62～69mm、成体はオスが体長38～81mm、メスが体長63～94mmの大型のカエルです。
オスの背色はふつう緑色～茶色ですが、繁殖期のオスは金色になります。メスの背面は灰色で黒い模様がつながっています。成体の背面には線状の突起があり、中央と左右に縦に伸びる線があります。
水田の周辺に多くみられ、動物食で昆虫、ミミズ、ムカデ、クモの他にカエルを食べることがあります。
繁殖期のオスは「グルルルレ……」と鳴いてなわばりをつくり、メスをめぐって争うこともあります。体が大きく、背を伸ばして座った姿が殿様のように立派であることから、「トノサマガエル」と名が付いたとされています。

生 息 場 所

低地から山地の水田、池、水たまりの周辺や付近の畑、草むらなどに生息します。
弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は4～5月。
田植え前後の水田に集まって繁殖します。
卵は黒色で、大きな塊となって水底に沈みます。繁殖数は1,800～3,000個です。卵は5～7日でふ化し、6～9月にオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													水田
出現時期													水田や付近の畑、草むら

ヌマガエル *Fejervarya kawamurai*



- **分類**
無尾目アカガエル科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長が30～40mm、成体はオスが体長29～45mm、メスが32～54mmの小型のカエルです。

背面は灰色～茶色で不規則な黒い模様があり、中央に縦線（背中線）をもつことがあります。足が短くずんぐりとした体形で、背面の皮膚には短い棒状の突起が多くありますが、腹面の皮膚には突起がなく白くてなめらかです。

水田周辺に多くみられ、小型昆虫類などを食べます。

繁殖期のオスは高い声で「キャウ、キャウ……」と長く鳴いたり、「グエッ、グエッ、グエッ……」と低い声で連続して鳴くことがあります。

生 息 場 所

平地の水田、水路、池などの周辺に生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川で見られます。

繁 殖

産卵期は5～7月。

水田や池などの浅い水域で繁殖します。

卵は暗い黄色で、数十個からなる小さな卵塊を数回に分けて産みつけます。6月下旬～9月中旬にオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													水田や池
出現時期													水田や池

シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii*



- **分類**
無尾目アオガエル科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長の最大が49mm、成体はオスが体長32～43mm、メスが43～53mmの中型のカエルです。

背面はふつうあざやかな緑色～黄緑色ですが、気温が低いと黒っぽい紫色に変化します。背面に黄色の小さな点をもつことがあり、目のひとみは金色です。

指先には吸盤が発達し、ふだんは樹や草の上で生活して小型の昆虫やクモなどを食べます。

繁殖期には水田や池などに集まり、オスは「ケレレ、ケレレ、ケレレ……」と鳴いてメスを呼び、水ぎわの地中に白い泡状の巣（産卵巣）を作り産卵します。

このカエルの標本を研究した、オランダの学者シュレーゲルが名前の由来です。

生 息 場 所

平地、丘陵地の水田、池、湿地化した休耕田などに生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は4月中旬～5月下旬。

農耕地の畦やその周辺の土中に穴を掘り、こぶし大の白い泡の中に卵を産み付けます。卵は淡い黄色で、卵の数は300～600個です。約7日後、卵塊内でふ化し、降雨時に泡とともに近くの水辺に流れ出ます。6月下旬ごろ、オタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													農耕地の畔や周辺の土中
出現時期													平地、丘陵地の水田、池など

モリアオガエル *Rhacophorus arboreus*



- **分類**
無尾目アオガエル科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【山口】

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長の最大が51mm、成体はオスが体長42～60mm、メスが59～82mmの中型のカエルです。
背面はふつうあざやかな緑色～黄緑色で、背中には赤っぽい茶色のまだら模様があるものもいます。環境により背面を黒っぽい紫色に変化することができ、目のひとみは赤みがかっています。指先には吸盤が発達していて木の上で生活することが多く、クモ類や昆虫類を食べています。繁殖期のオスは「カララ、カララ……コココ」と鳴いてメスを呼び、池の周囲にある木の枝先に産卵することから、「森にすむアオガエル」という意味でモリアオガエルと名付けられました。

生 息 場 所

山地の池周辺に生息します。繁殖期は樹上におり、日中は葉の陰や木の穴の中に潜んでいます。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺の山地で見られます。

繁 殖

産卵期は5月中旬～7月上旬。
池沼、水田などの水域周辺の木や草に、泡状の卵塊をつくります。卵塊には300～500個の卵が産みつけられ、約一週間後ふ化します。その後、雨天時などに水中に流れ落ち、8月～9月にオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													水域周辺の木や草
出現時期													山地の森林

カジカガエル *Buergeria buergeri*



- **分類**
無尾目アオガエル科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【山口】

特 徴

幼生（オタマジャクシ）は全長の最大が44mm、成体はオスが体長37～44mm、メスが49～69mmの中型のカエルで、メスの方がずっと大きな種です。
背面はあまり目立たない薄茶色～灰色で、茶色のまだら模様があり、小さな突起がある皮膚はざらざらしています。
手足の指先には吸盤があり、ふだんは木の上や高いがけなどで生活し、クモ、ハエや小型の昆虫類を食べています。
繁殖期のオスは溪流周辺の岩で、「フィーフィーフィー……」とシカに似た美しい声で鳴いてなわばりをつくりメスを呼ぶため、「河鹿（かじか）」ガエルと名付けられました。

生 息 場 所

平地から山地にかけての河川や溪流周辺に生息します。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は4～8月。多くは4～7月に繁殖します。
溪流や上流の平瀬にある石の下や草の根元などで繁殖します。卵は上部が黒色で、大きな寒天質の卵塊になっています。卵塊には50～100個の卵があり、メス1匹当りの繁殖数は約500個です。卵は約2週間でふ化し、繁殖後3～4ヵ月でオタマジャクシから変態して幼体（子ガエル）になります。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													石の下や草の根元
出現時期													溪流周辺